

発行日：2021年5月17日

環境経営レポート

2020年度（2020.4.1～2021.3.31）



目 次

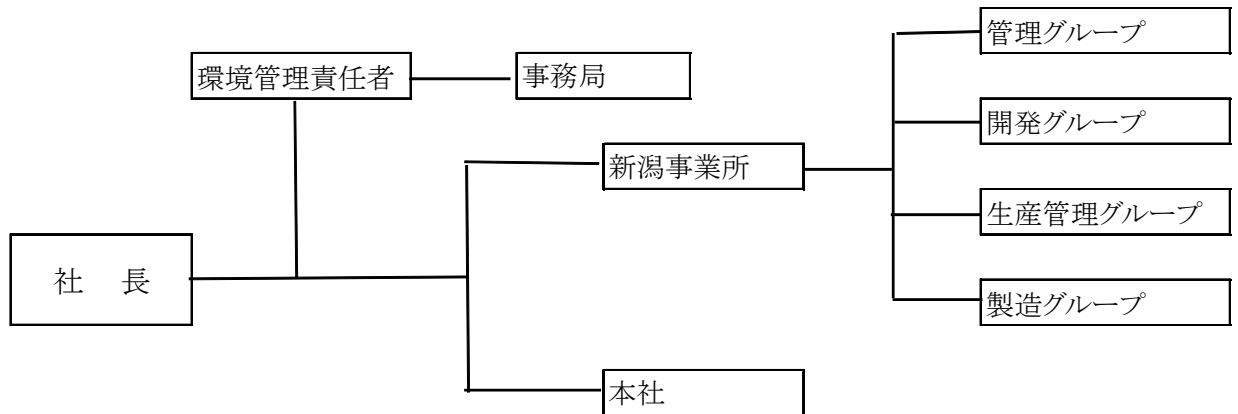
1. 組織概要及び対象範囲	P.2
2. 環境経営方針	P.4
3. 環境経営目標	P.5
4. 環境経営計画と取り組み状況	P.6
5. 環境への負荷チェック	P.8
6. 環境経営目標の実績と評価	P.10
7. 次年度の環境経営目標	P.13
8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P.14
9. 環境関連教育	P.15
10. 代表者による全体評価と見直し	P.15

1. 組織概要及び対象範囲

1) 名称及び代表者

永田精機株式会社
代表取締役 永田 裕悟

2) エコアクション21認証範囲



3) 事業所及び所在地

永田精機株式会社	本社	東京都豊島区北大塚2-1 1-9
永田精機株式会社	新潟事業所	新潟県燕市上諏訪8番2号

4) 環境管理責任者及び環境活動推進責任者

・環境管理責任者	取締役	白倉 武芳
・環境活動推進責任者		
新潟事業所		
製造グループ	マネージャー	山田 一弘
製造グループ(加工担当)	マネージャー	遠藤 治彦
開発グループ	執行役員	飯野 則義
生産管理グループ	マネージャー	加藤 謙治
管理グループ	マネージャー	梨子本 勝
本社	監査役	永田 一雄

連絡先

管理グループ 梨子本 勝

電話 0256-98-5131 (代表) FAX 0256-98-5642 (代表)

E-mail : m-nasimoto@nagata-seiki.co.jp

5) 事業の内容

電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器の開発、
製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理

6) 事業の規模

事業年度	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
製品生産量	t	58.4	100.1	126.2	123.2	172.7
従業員数(新潟事業所)	人	91	91	91	83	80
従業員数(本社)	人	4	4	4	4	4
従業員数(九州営業所)	人	1	1	-	-	-
合計	人	96	96	95	87	84
床面積(新潟事業所)	m ²	16,292	16,292	16,292	16,292	16,292
床面積(本社)	m ²	240	240	240	240	240
床面積(九州営業所)	m ²	27	27	-	-	-
合計	m ²	16,559	16,559	16,532	16,532	16,532

事業年度：4月～3月

2018年度より九州営業所閉鎖

2. 環境経営方針



環境経営方針

環境経営理念

永田精機株は、電子部品実装工程機器、各種自動機・省力化機器の開発、製造及び受託加工、商品の販売、不動産の賃貸管理を通じ、環境負荷削減に配慮した事業活動を展開していく。

環境経営方針

1. 省資源・省エネルギー活動の推進

事業活動全領域で、省資源、省エネルギーに配慮した活動を行う

- 製品生産量（t）当りのCO₂排出量の削減
- 製品生産量（t）当りの水資源使用量の削減
- 製品生産量（t）当りの紙資源（コピー用紙）使用量の削減
- 製品生産量（t）当りの一般・産業廃棄物排出量の削減
- 化学物質の適正管理
- グリーン購入（事務用品）の推進
- 環境に配慮したものづくりに努める

2. 環境関連法規の遵守

該当する環境関連の法規制や条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守する

3. 継続的環境負荷削減の実施

環境マネジメントシステムを構築し、継続的に環境負荷削減に取り組む

4. 環境啓発活動の推進

全従業員に対して環境経営方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行う

5. 環境経営の改善

経営における課題とチャンス considering して環境経営目標を定め、それに取り組み定期的に見直しをすることにより環境経営の継続的な改善を行う

6. 環境関連情報の公表

環境経営レポートを当社HPで公表する

2019年11月1日改訂
永田精機株式会社

代表取締役 永田 裕悟

3. 環境経営目標

当社は、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んでいく

長期目標

2019年度の製品生産計画を基準値として、2021年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を3%削減する」

2020年度、短期目標

2019年度の製品生産計画を基準値として

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を2%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を2%削減する」

二酸化炭素排出量削減目標

製品生産量 (t) 当り 二酸化炭素合計 (kg-CO ₂)	2019年 計画基準	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
	7,167	7,095	7,024	6,952
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97
●購入電力の排出係数は、2015年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数を使用 新潟(東北電力) 0.556 kg-CO ₂ 東京(東京電力) 0.500 kg-CO ₂				

紙消費量削減目標

製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (Kg)	2019年 計画基準	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
	12.25	12.13	12.01	11.88
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

水資源消費量削減目標

製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m ³)	2019年 計画基準	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
	31.98	31.66	31.34	31.02
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

廃棄物排出量削減目標

製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (Kg)	2019年 計画基準	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
	325.43	322.18	318.92	315.67
計画基準値を100としての指数	100	99	98	97

その他

環境に配慮したものづくりに努める

- (具体的な取組み) ①不適合品の低減に努める (ISO9001 活動に準じる)
 ②生産性向上への改善提案活動の実施 (改善提案活動に準じる)
 ③品質向上への改善提案活動の実施 (改善提案活動に準じる)
 ④製造経費を発表しコスト削減に努める (月1回の発表)

4. 環境経営計画と取り組み状況

環境経営目標を達成するために、各項目に対して下記の手順で消費量の削減を図っていく

数値目標を達成するための取り組みと評価（概ね実施＝○、一部実施＝△、未実施＝×）

①電力使用量の削減項目

項 目	評 価
●休日出勤時、残業時、職場内の照明は必要最小限にする	○
●休憩時間は、蛍光灯を消灯する（作業台を含む）	○
●作業者不在となる職場の蛍光灯は消灯する	○
●自然光をできるだけ取り入れ、窓側の蛍光灯を消灯する	○
●作業に支障が無い所の蛍光灯は、常に消灯する	○
●通常使用する照明スイッチにマーキングし、必要な時しか点灯させない	○
●モニター等、OA 機器購入時は、消費電力が低い物を選定する 【管理】	○
●職場内で不要と思われる場所の蛍光灯、換気扇を消す	○
●手洗い場、トイレの蛍光灯は、使用時のみ点灯する	○
●照明器具を年一回掃除する	○
●室内空調の温度設定を、夏は28度、冬は20度とする	△
●帰宅時、最後の人は冷暖房、プリンター、コピー機の消し忘れをチェックする	○
●コピー機は使用したら待機状態にする	○
●5分以上席を離れるときは、パソコンの画面スイッチを切る	△
●プリンターやシュレッダーなどは、使う時のみスイッチを入れる	△
●未使用機械のブレーカーは切る 【製造】	○
●無人運転のNC 機械のディスプレイ画面は消す 【製造】	○
●休出時、またはエアーの必要がない工場の元栓を締める 【製造】	○
●設備機械の漏電、エアー漏れを月一回点検する 【製造】	○
●エアーコンのフィルターは、年二回清掃する	○
●製造方法、製造工程に改善を加え、効率的に製造を行う 【製造】	○
●デマンドモニターを監視し、必要に応じて新潟事業所内の空調設備使用の制限を行う 【管理】	○

②化石燃料消費量の削減項目

項 目	評 価
●冷暖房を極力無くし、各自衣類などで調整することを推進する	○
●ブラインドやカーテン(ビニールカーテン含む)の利用などにより、熱の出入りを調節している	○
●暖房用ボイラーの設定温度を55度とする 【新潟事業所】	○
●手洗用給湯器の温度設定を40度とする 【管理、製造】	○
●社用車運転時、急加速、急発進、空ぶかしをしない	○
●社用車運転時のアイドリングストップを推進する（駐停車中）	○
●社用車の定期的整備による燃料効率向上、排ガス・騒音レベルの抑制を推進する 【管理、生産管理】	○
●作業終了一時間前にボイラーを停止し、装置内の余熱を有効利用する 【新潟事業所】	○

③紙消費量削減項目

項 目	評 価
●社内連絡文書はメール化して、紙を使わないようにする	△
●文書で連絡する場合は、回覧、掲示を励行し、配付枚数を減らす	○
●使用済み封筒を再利用している 【管理、開発、生産管理、本社】	△
●使用済み用紙、ポスター、カレンダーなどの裏紙が活用できる紙は可能な限り利用する	△
●コピーの縮小機能を利用し、紙の消費量を抑える（A4を推奨）	○
●裏紙使用、両面印刷を推進し、紙の消費量を抑えるようにする	○
●連帳全紙で印刷されていた月報は、A4サイズでの印刷に移行する	△
●プロジェクターの利用を推進し、会議用資料の配布を抑える	○
●ミスコピーを防止するため、コピー機の使用後は設定をリセットする	○
●環境に配慮した事務用品を購入する 【管理】	○

④水資源消費量削減項目

項 目	評 価
●手洗い場に洗面器を設置し、溜め水での手洗いを推進する	○
●水道配管からの漏洩を月一回点検する	○
●バルブの調整により水量及び水圧の調整を行う 【新潟事業所】	○

⑤廃棄物排出量削減項目

項 目	評 価
●シュレッダー使用後のくずを、梱包用クッション材に再利用する 【新潟事業所】	△
●納品に使用されたダンボール箱は、再利用する 【生産管理、製造】	○
●部品払出しに使用されたビニール袋は、再利用する 【生産管理、製造】	○
●トナーカートリッジは回収・再生し、リサイクルに努める	○
●廃棄物の分別回収を徹底し、再資源化に協力する	○
●品質劣化等による不良在庫を減少させるため、在庫数の適正化に努める 【生産管理】	○
●OA 機器等の故障時には、修理可能かどうか確認し、可能な限り修理することで長期使用に努める	○

⑥化学物質の適正管理

項 目	評 価
●使用する化学物質購入排出量の把握 【新潟事業所】	○

⑦グリーン購入の推進

項 目	評 価
●環境に配慮した事務用品の購入に努める 【管理、本社、】	○

⑧環境に配慮したものづくりに努める

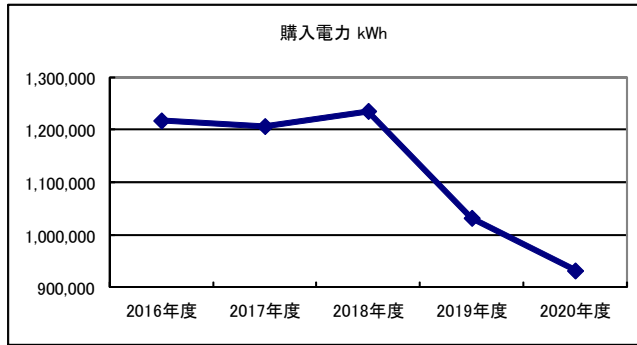
項 目	評 価
●不適合品の低減に努める（ISO9001活動に準じる）	△
●生産性向上への改善提案活動の実施（改善提案活動に準じる）	○
●品質向上への改善提案活動の実施（改善提案活動に準じる）	△
●製造経費を発表しコスト削減に努める（月1回の発表）	○

5. 環境への負荷チェック

新潟事業所、本社の合計値で表示した。
九州事業所は電気、水道ガスが共用であるため除外。

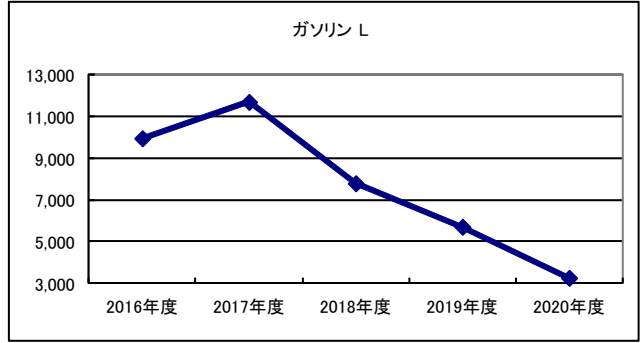
環境負荷実績グラフ

使用量・消費量



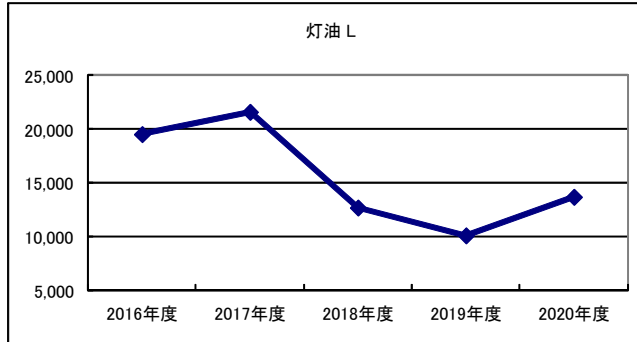
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
購入電力	kWh	1,217,769	1,207,079	1,235,774	1,032,428	932,208

使用量・消費量



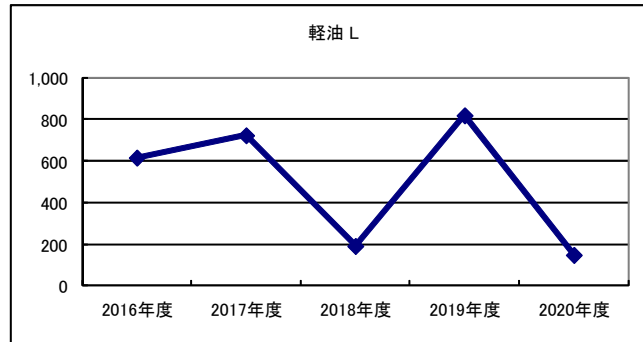
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
ガソリン	L	9,941	11,677	7,790	5,709	3,263

使用量・消費量



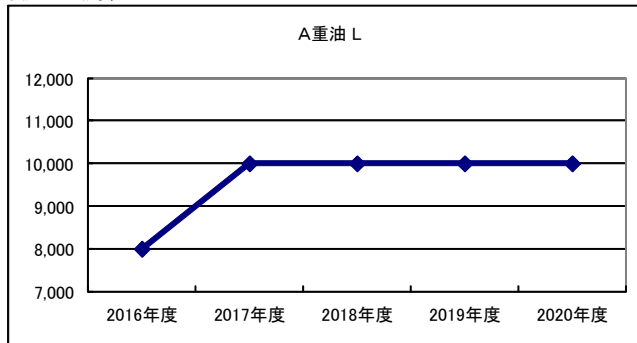
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
灯油	L	19,532	21,615	12,690	10,096	13,684

使用量・消費量



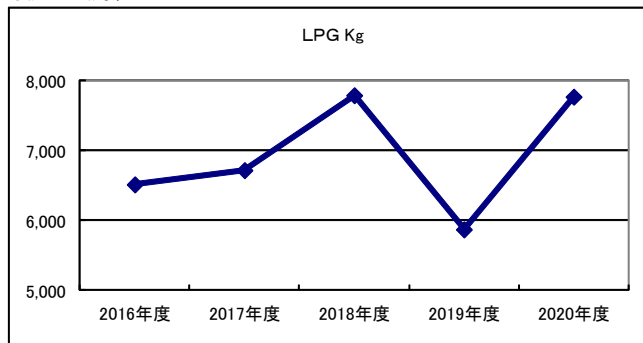
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
軽油	L	616	723	191	819	148

使用量・消費量



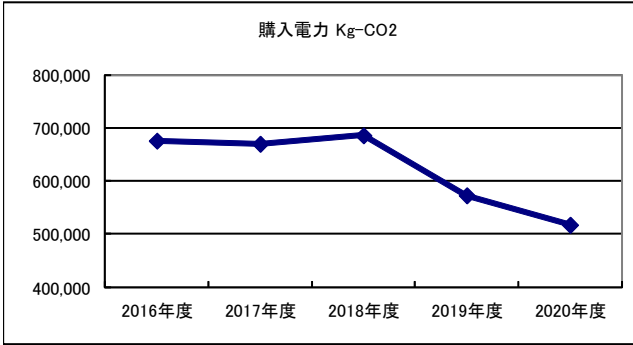
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
A重油	L	8,000	10,000	10,000	10,000	10,000

使用量・消費量



項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
LPG	Kg	6,512	6,715	7,784	5,869	7,763

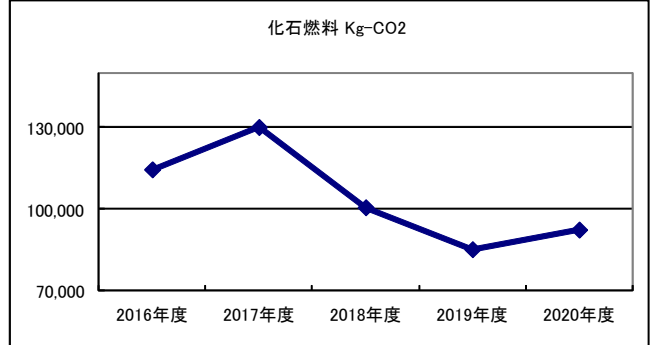
二酸化炭素排出量



項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
電力	kg-CO2	675,659	669,678	685,654	572,699	517,069

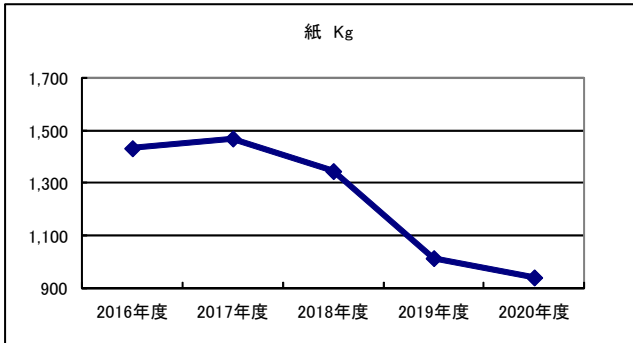
二酸化炭素排出係数 (Kg-CO2)	新潟	本社	大阪
2015年度	0.556	0.500	0.509
	東北電力	東京電力	関西電力

二酸化炭素排出量



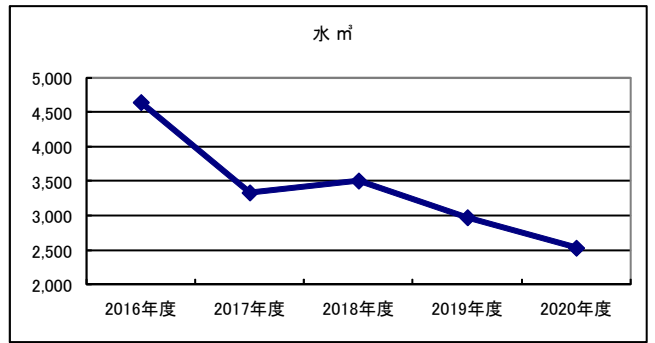
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
化石燃料	kg-CO2	114,596	130,126	100,675	85,278	92,466

使用量・消費量



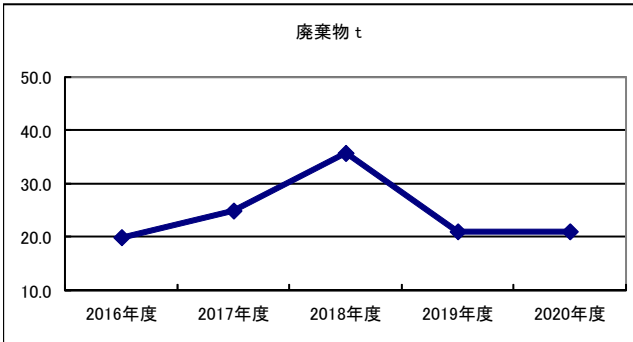
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
紙	kg	1,432	1,469	1,345	1,013	939

使用量・消費量



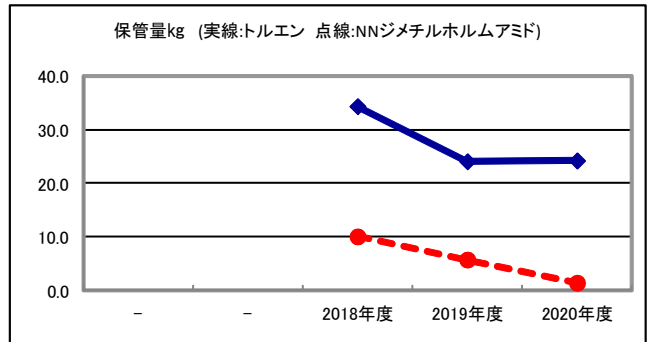
項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
水	m³	4,645	3,336	3,508	2,976	2,534

排出量



項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
廃棄物	t	19.9	24.9	35.7	21.0	21.0

化学物質保管量(年度末)



*2018年度以前は未計量

項目	単位	-	-	2018年度	2019年度	2020年度
トルエン	Kg			34.3	24.1	24.2
NNジメチルホルムアミド	Kg			10.1	5.8	1.4

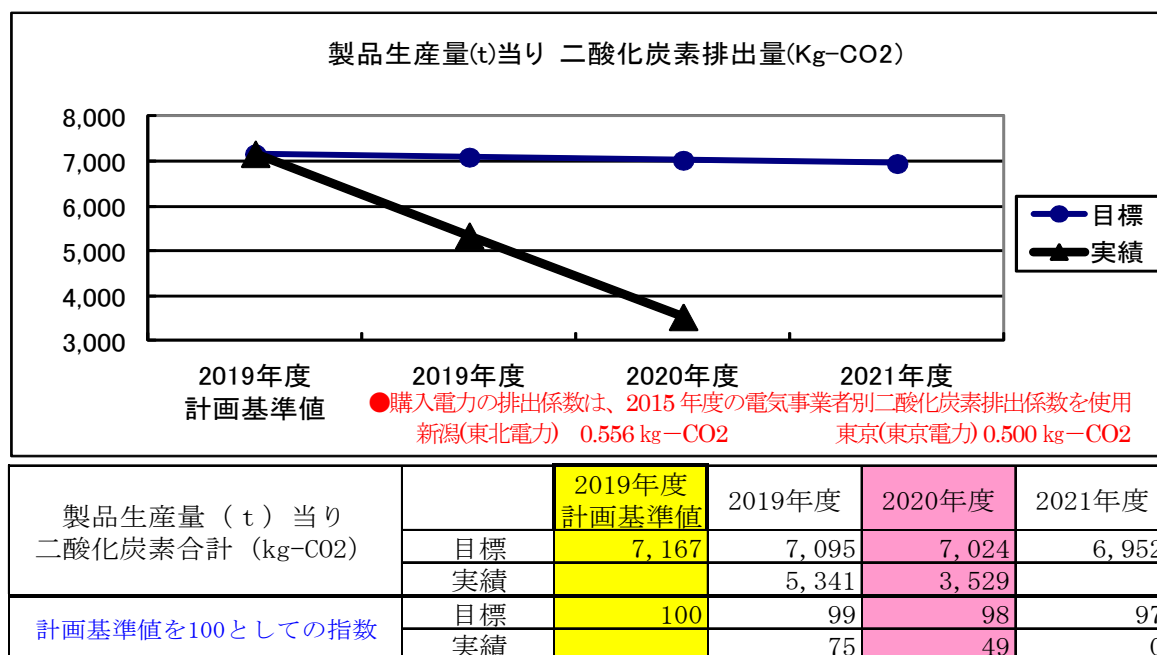
6. 環境経営目標の実績と評価

内部監査で地道な環境活動に取り組んでいる事を確認した。日々の積み重ねが良い結果に繋がっている。ほか新型コロナ及び猛暑対策等により下記の施策の効果も反映されていると考える。

- ・テレワーク導入
- ・Web会議による出張抑制にともなう車両使用の減少
- ・夏用作業服を半袖ポロシャツに変更
- ・生産増減に対して稼働建屋を変更し空調等の電力使用を抑制

また当初生産計画を上回る取り込みを積極的に進めた結果、製品生産量は2019年度に対して40.2%アップとなり、工場の安定稼働も環境経営に効果をもたらした。

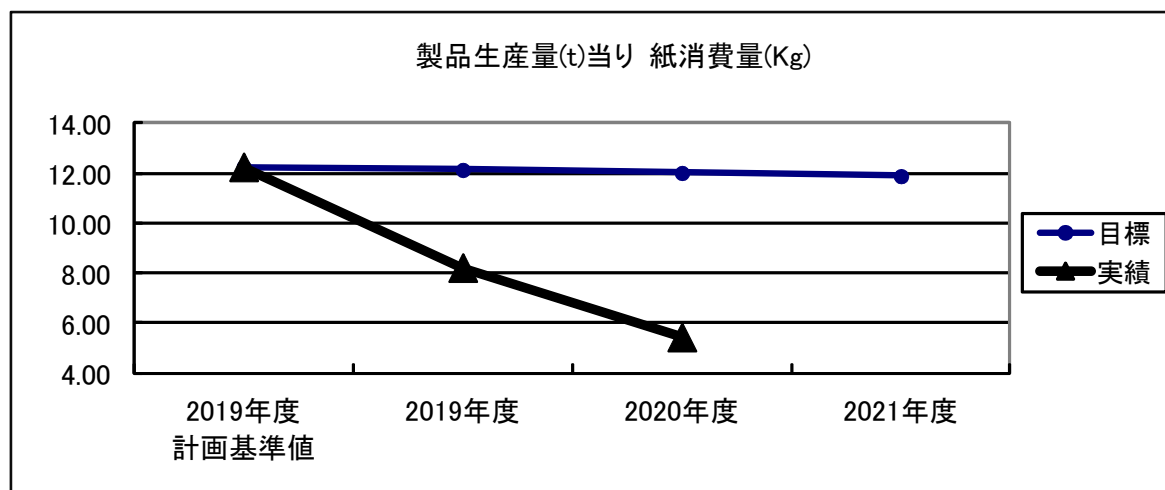
二酸化炭素排出量 「評価＝達成」



製品生産量当り二酸化炭素排出量は、目標に対して+49ポイントで目標は達成された。昨年同期比較では、購入電力投入量(総量)が9.7%減、化石燃料の投入量(総量)が8.4%増、エネルギー投入量(総量)では7.4%減となった。

夏場は換気目的の窓の開放にともない、例年より早めの6月5日より冷房を稼働させた。温度設定やビニールカーテンによる節電活動は継続した。冬場はビニールカーテンによる暖気逃げ対策や小型暖房機、防寒着の着用などの節電活動を実施した。化石燃料は消費量増となったが、換気目的の窓の開放にともなう高めの暖房温度設定による。

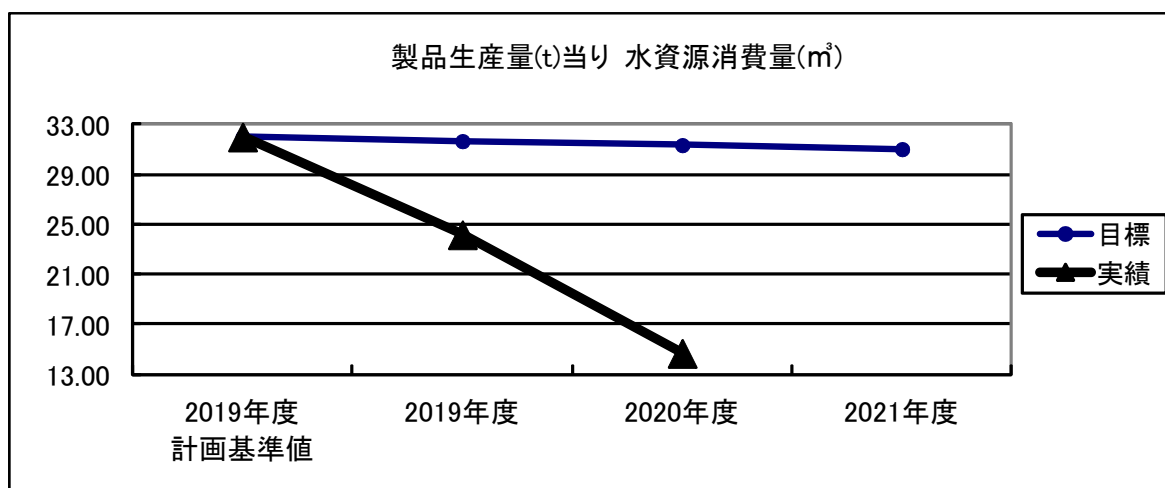
紙消費量 「評価=達成」



製品生産量 (t) 当り 紙消費量 (kg)		2019年度 計画基準値	2019年度	2020年度	2021年度
	目標	12.25	12.13	12.01	11.88
	実績		8.22	5.44	
計画基準値を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		67	44	0

製品生産量当り紙消費量は、目標に対して+54ポイントになり目標は達成された。
 昨年同期比で紙消費量(総量)は7.3%減となった。
 (コピー用紙枚数では2019年度205,000枚、2020年度186,000枚)
 またテレワークやWeb会議を推進した結果、紙資料の電子化が進んだ。

水資源消費量 「評価=達成」

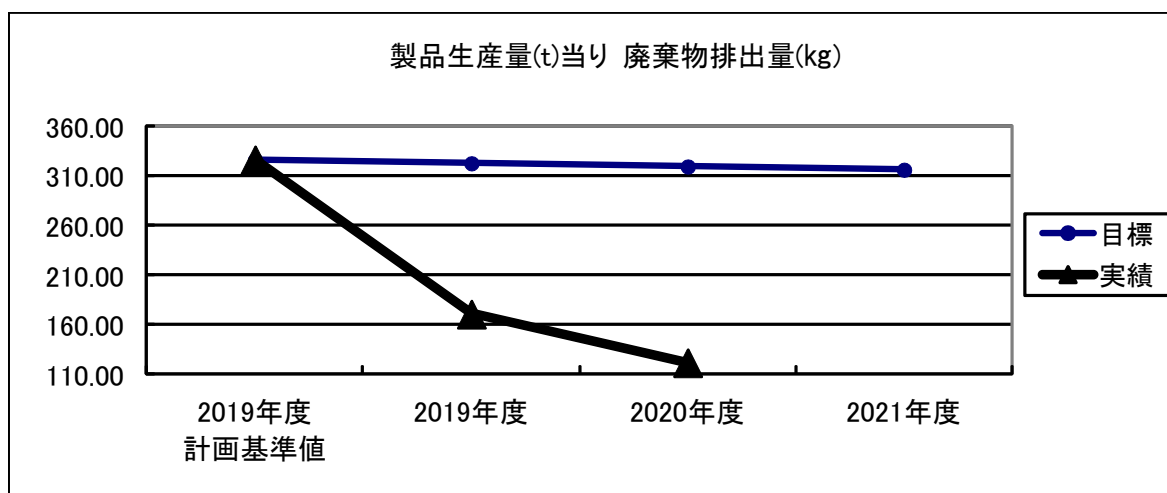


製品生産量 (t) 当り 水資源消費量 (m³)		2019年度 計画基準値	2019年度	2020年度	2021年度
	目標	31.98	31.66	31.34	31.02
	実績		24.16	14.67	
計画基準値を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		76	46	0

製品生産量当り水資源消費量は、目標に対して+52ポイントで目標は達成された。
 昨年同期比で水資源消費量(総量)は14.9%減となった。

水を使用する生産工程は無く生活用水が大半を占める。定期的な点検実施により凍結による水漏れを防いだ。

廃棄物排出量 「評価=達成」



製品生産量 (t) 当り 廃棄物排出量 (kg)		2019年度 計画基準値	2019年度	2020年度	2021年度
	目標		325.43	322.18	318.92
実績			170.46	121.60	
計画基準値を100としての指数	目標	100	99	98	97
	実績		52	37	0

製品生産量当り廃棄物排出量は、目標に対して+61ポイントで目標は達成された。
 昨年同期比で廃棄物排出量(総量)は増減なし。
 昨年度に引き続き仕様変更で発生する廃棄物を抑制したことによる。

化学物質の適正管理

毎月保管量について入出把握による適正な管理を実施した。保管量は減少傾向である。

グリーン購入 (事務用品) の推進

2021年3月末時点で移行済みのグリーン適合品は31アイテムとなった。今後もコストを考慮しつつグリーン購入を拡大する。

環境に配慮したものづくりに努める

①不適合品の低減に努める(ISO9001 活動に準じる)

不適合品発生件数の目標値内への大幅な抑え込みを達成。

②生産性向上への改善提案活動の実施(改善提案活動に準じる)

改善提案では生産性向上を目指した提案が 172 件提出され、前年対比では 13.9%増となった。

③品質向上への改善提案活動の実施(改善提案活動に準じる)

改善提案では品質性向上を目指した提案が 93 件提出され、前年対比では 12.3%減となった。

④製造経費を公表しコスト削減に努める(月 1 回の発表)

月 1 回、全社員を集め実績報告を行っている。

7. 次年度の環境経営目標

2020 年度の実績製品生産量は 172.7t で 2021 年度は 177.4t を計画している。

引き続き 2019 年度に設定した長期目標を継続することとした。従来通り出来ることをしっかり積み重ねながら地道な環境活動を進める。

長期目標

2019 年度を基準として 2021 年度末までに

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を 3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を 3%削減する」

2021 年度、短期目標

2019 年度を基準として

- 「電力、化石燃料消費による製品生産量当りの二酸化炭素排出量を 3%削減する」
- 「製品生産量当りの紙消費量、水資源消費量、廃棄物排出量を 3%削減する」

2019～2021 年までの項目ごとの年度目標値は、P5.「環境経営目標の 2021 年度目標」を参照。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

●適用となる主な環境関連法規等

主な適用法規 (◎遵守法令、○準用法令)	主な要求事項	評価
◎下水道法	・特定施設の届出 ・事故時の応急処置と届出	○
◎騒音規制法	・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出	○
◎振動規制法	・指定区域における規制基準の遵守、特定施設の届出	○
◎悪臭防止法	・指定区域における規制基準の遵守	○
○PRTR法	・当該化学物質の年間排出量、移動量を把握。 ・基準値以上は報告	○
◎高圧ガス保安法	・貯蔵及び取扱い開始の届出	○
◎廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託契約の書面締結 ・産業廃棄物管理票の管理 ・産業廃棄物管理票の1年間の交付実績報告	○
◎特定家庭用機器再商品化法	・特定家庭機器の廃棄時にリサイクル料金の支払	○
◎使用済自動車の再資源化等に関する法律	・使用済み自動車の適正処理	○
◎消防法	・防火管理者の選任 ・危険物取扱者の選任 ・危険物貯蔵所の許可 ・危険物保管数量の遵守	○
◎有機溶剤中毒予防規則	・有機溶剤作業主任の選任	○
◎安全衛生法	・安全データシート(SDS)交付義務対象物質の新規採用、 作業方法の変更時にリスクアセスメントの実施	○
◎新潟県・燕市環境基本条例	・特定施設の届出、規制基準の遵守等	○
◎フロン排出抑制法	・全ての第一種特定製品の簡易点検実施(3ヶ月に1回以上) ・一定の第一種特定製品について、専門知識を有する者による点検の実施(3年に一回以上)	○
◎ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(3,8,10条) ◎同施行令(3条)	・PCB廃棄物の適切な管理、処分	○

○自己管理をおこない関連法規の違反は無かった。

○各方面からの訴訟等は無かった。

○地域からの苦情は無かった。

9. 環境関連教育

教育・訓練年間計画に基づき環境関連教育を実施した。

実施時期	内容	対象者
・2020年5月	環境経営目標と環境経営計画の周知	新潟事業所全員、本社
・2020年9月	危険物保管場所の緊急対応訓練	新潟事業所指名者
・防災訓練	については中止（コロナ感染防止策による消防署指導）	

10. 代表者による全体評価と見直し

	2020年9月末	2021年3月末	アップポイント
①二酸化炭素排出量	対目標+46P	対目標+49P	+3
②紙消費量	対目標+46P	対目標+54P	+8
③水資源消費量	対目標+48P	対目標+52P	+4
④廃棄物排出量	対目標+55P	対目標+61P	+6

期初は主要顧客先においてコロナ禍の影響が大きく、3カ月先が見通せない状況にある顧客が多かったが、下期以降は期初計画に対して上振れ傾向で推移し続け、そのまま年度実績でも計画対比で大幅上振れとなり、結果としてコロナ禍の影響を最小限に抑え乗り切ることができた。

感染予防や猛暑対策等を前向きに実施しつつ、強い危機感を持って営業活動と生産活動に取り組んだ事により、売上高、生産量で当初計画を上回り、エコ活動における好結果に繋がった。全従業員皆さんの多大なる協力と努力に感謝する。2021年度も既存の長期目標を継続することを承認する。

	2020年度（2019年度）アップ
①製品生産量当たり二酸化炭素排出量	2004年度より 68.5%減（66.0%減）+2.5
② 〃 紙消費量	〃 72.6%減（70.4%減）+2.2
③ 〃 水資源消費量	〃 74.1%減（69.6%減）+4.5
④ 〃 廃棄物総排出量	〃 56.0%減（56.0%減）±0.0

2004年度から開始したエコアクション21の活動は17年目を迎えた。着実に成果を上げ続け、従業員のエコ意識は格段に改善されている。

エコ活動において成果を出すには、なにより従業員個々の意識向上と日々の不断の取組みが大切である。今期においてもエコアクション21を会社の重要な活動として位置付け、社内意識の啓蒙と継続的な活動を促進する。